

津波標石 一到達地点に建てられた石碑一

末崎町の長源寺境内にある「津浪横死者供養碑」には、東京朝日新聞社の義援金により村内（旧末崎村、現在は末崎町。）28カ所に津波の襲来地点を示した標石を設置したことが記されています。標石は、主に明治と昭和の2基が1対になるように設置されたと考えられません。



長源寺境内の津浪横死者供養碑（正面）



長源寺境内の津浪横死者供養碑（裏面）

失われゆく標石 設置から50年後、1985年の調査時には、7基が失われており（大里1986）、2008年にはさらに1基が失われていました（当館2008）。

東日本大震災により、さらに2基が失われ、現在は18基が残されています。

震災の津波によって被害を受けた標石は他にもいくつかあります。そのうち2基は、消失のおそれがあったことから当館に持ち込まれ、これまで保管してきました。

新たな標石 地縁団体である末崎町公益会では、明治・昭和の標石に対応する平成の標石を設置しています。

現地で津波の到達地点を知ることができるものとして、後世まで残していかなければなりません。

碑文の一部

一、明治廿九年六月十五日（陰曆五月節句）午後七時五十分海水異様ニ減退同八時七分轟雷ノ響ヲ續ケ大津浪襲来僅カ十八秒ニシテ本村現在戸数三百八十八戸ノ内被害家屋百七十八現住人口二千九百六十五人ノ内死者六百七十餘負傷二百餘内重傷百六ヲ算ス最大波高ハ碁石岬乱暴谷断崖上ニ石礫ヲ打上グ

（途中省略）

一、昭和八年三月三日午前二時卅二分激震後一時海水著シク減退セリト見ルヤ同三時八分津浪襲来現在戸数五百六十四内流失全潰ヲ合セ百五十六半潰十八浸水廿九死者男廿三女十六負傷男女合セ廿六馬一豚三鶏五十八斃ル此ノ災害ノタメ衣食住ノ救護ヲ受ケタル者千九人建物ヲ除ク船舶漁具家財等ノ損害約廿万円ニ昇ル最大波高切通附近満潮面上卅三尺

一、明治廿九年昭和八年両度ノ村内津浪襲来地点ハ村内廿八ヶ所ニ設置ノ津浪襲来地点標石ニ示ス此ノ費用ハ東京朝日新聞社指定義捐金ニ依ル（途中省略）

為後世録之 末崎村長 山本周太郎識
昭和十年三月三日
石巻井内高橋運治郎刻

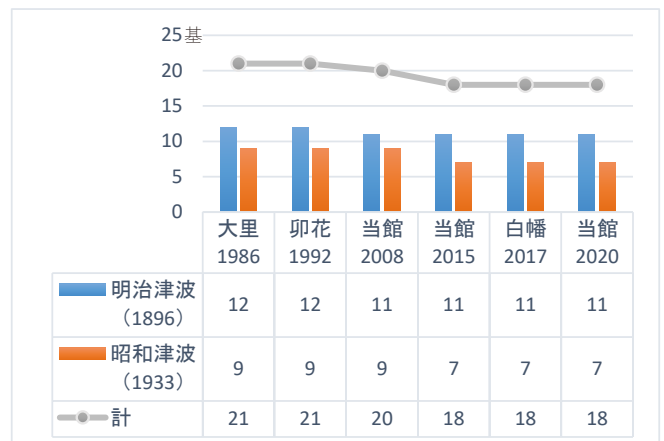


表2 津波標石の確認数の推移

補足

- ・東日本大震災（2011）後の調査で確認した標石は、付近に横倒しで置いてあるもの、当館で保管しているものを含む、標石自体が残るものを対象としています。
- ・末崎町公益会では、倒れた標石を元の場所に戻す取り組みを行っています。